

|     |              |     |      |     |               |
|-----|--------------|-----|------|-----|---------------|
| 媒体名 | 毎日新聞 千葉県版 朝刊 | 版/面 | 19 面 | 掲載日 | 2021年2月18日(木) |
|-----|--------------|-----|------|-----|---------------|

世界的人材育成  
教育の改革から  
神田外語大・宮内学長



2月講座



宮内孝久・神田外語大学学長

毎日新聞企業人大学は17日、2月講座を開いた。新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言を受け、今回はオンライン配信での開催となった。三菱商事副社長を退任後、

2018年から神田外語大学(千葉県美浜区)の学長を務める宮内孝久氏が「商社マンから学長になって驚いた!」とビジネス視点の大学「改革」と題して講演。40年間にわたるビジネスの現場で培ったグローバルな視点で取り組む大学教育の改革などについて話した。

【山田利和】

講演要旨

1989年には世界トップ50に入る日本企業は約30社あったが、2020年にはトヨタ1社になった。商社マン時代に参加した「ダボス会議(世界経済フォーラム)」で、欧米などに比べると日本の若いリーダーは積極的な発信力が弱く存在感が

薄いと感じた。日本を変えるには教育改革が必要だと考えていた。教育界に入ると、日本の教育現場は画一的で多様性を認める価値観に欠けていることを痛感した。世界をリードする「GAF A(グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン、コム)」などは多様性を尊重してイノベーションを生み出している。コロナ禍で「新しい生活様式」が求められるが、教育界ではオンラインの活用による「アクティブ・ラーニング」や「GIGAスクール構想」が進められている。見方を変えれば、世界から20年遅れているとされるデジタル化を取り戻すチャンスにすることができる。学生には日ごろから「クリティカル・シンキング(批判的思考)」の大切さを伝えていく。鍛えるには、客観的な事実に基づく新聞をよく読むことなどが欠かせない。変わりゆく世界の動向を自分でしっかりと見極め、アイデアを巡らせ、イノベーションを起こしてほしい。私たちは外国語を切り口に、日本の教育を変えていきたいと思っている。

※無断での複写・転載を禁じます